The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	バリ語敬語語彙に関する先行研究の批判的検討 : 4つの記述的研究についての覚え書き
Author(s)	原, 真由子
Citation	大阪外国語大学論集. 2006, 33, p. 179-194
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/79985
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

大阪外国語大学論集第33号（2005年）

バリ語敬語語彙に関する先行研究の批判的検討
－4つの記述的研究についての覚え書き

原　　真由子

A review of four investigations on Balinese honorific vocabularies

HARA Mayuko

[Abstract]

This paper critically reviews four important investigations on Balinese honorific vocabularies, i.e. Kersten (1970), Bagus (1979), Udara Naryana (1983), and Kersten (1984). A special attention is paid to identification and classification of honorific vocabularies which these studies presented. In the course of the review, important features of Balinese honorifics are discussed, and a new hypothesis concerning a structural change of the honorific system of Balinese is proposed.

1. はじめに

1. 1. 本稿の目的

バリ語の敬語語彙を扱った記述的研究は，私の知り得た限り次の4つがある[1]。

（1）Kersten（1970）

（2）Bagus（1979）

（3）Udara Naryana（1983）（以下 UN（1983）と記す）

（4）Kersten（1984）

ここで言う記述的研究とは，バリ語の敬語語彙を収集・提示し，それらの分類を試みるものである。これは，いわば共時的な語彙構造に関する研究であり，バリ語の語彙研究の一部と位置づけることができる。（1）から（4）の4研究は，いずれもバリ語の敬語体系の理解と記述のために以下の2つの課題に取り組んでいる。

(i) バリ語の語彙体系の中でどの語彙が敬語語彙であるか認定すること

(ii) それらを敬語的属性ごとに分類すること

また，上記の4つの研究の他に崎山・柴田（1992）があり，（1）から（4）の研究が報告しているような語彙目録を提示していないが，より詳細な敬語語彙の分類をおこなっているという点で記述上の貢献をしている。ただし，崎山・柴田（1992）が用いている敬語語彙の詳細な下位分類は本研究と直接関連しない。

本稿では，（1）から（4）のそれぞれにおいて，どれだけの敬語語彙が認定されている

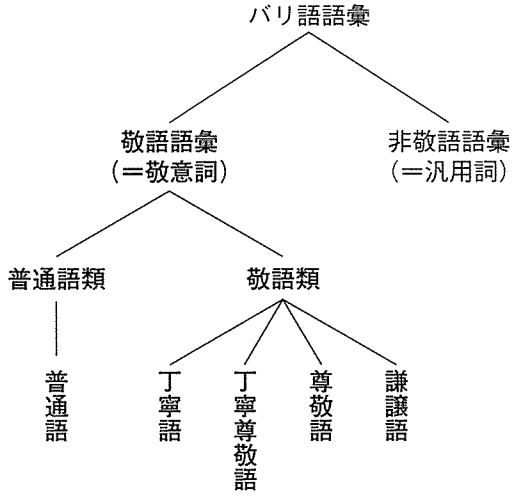
か，また認定された敬語語彙がどんな基準に基づいて分類されているか，これら2つの点を比較，検討し，そしてバリ語敬語語彙の内部構造を明らかにする。また，ある敬語語彙の分類法の考察から，語彙構造の変化についての解釈を試みる。

1. 2. バリ語語彙と敬語法

先行研究の比較検討をおこなう前に，バリ語語彙と敬語法について簡単に触れておく。

バリ語語彙全体の構造を簡略的に図示したものが図1である。バリ語語彙は，敬語語彙（敬意詞）と非敬語語彙（汎用詞[2]）の2種類の語彙範疇に大別される。

図1　バリ語敬語語彙



敬語語彙は普通語類と敬語類に分類される。敬語類は3つあるいは4つの敬語語彙クラスに分けられる。これら敬語類の下位範疇である丁寧語・丁寧尊敬語・尊敬語・謙譲語は，同義語関係にある普通語類の語彙とセット（「敬語セット[3]」と呼ぶ）を構成する。「敬語セット」のタイプにはいくつかあるが，そのうち「普通語－尊敬語－謙譲語」の例を表1に示す。

表1　敬語セットの例

	普通語	尊敬語	謙譲語
彼	ia「彼」	dane[1]「あの方」	ipun「あいつめ」 （自分側の第三者）
食べる	madaar「食べる」 >ma-daar（飯）	majengan[5]「お食べになる」 >m-ajeng-an（飲食する）	nunas「いただく」 >t(n)unas （懇願，拝受する）

敬語語彙（敬意詞）に対して，非敬語語彙（汎用詞）には敬語セットを構成するような敬語的対立を持つ同義語は含まれない。本研究で考察対象とするのはもっぱら敬語語彙（敬意詞）である。

大まかに言うと，バリ語の敬語は，発話状況および話し手，聞き手，言及される対象の属する身分（カーストを中心とする社会階層による区別）に応じて，敬語セットに属する敬語語彙から最も適切な同義語を選択することによって形成される語彙的現象である。

例えば，「彼は食べる。」という意味の文を作る場合，表1にあげた「普通語－尊敬語－謙譲語」の敬語セットに属する敬語語彙を交替させることによって，敬語的に異なる3つの同義の文を作ることができる。例文中の「普」は普通語，「尊」は尊敬語，「謙」は謙譲語を示す。

バリ語の謙譲語は，話し手が自分のことについて卑下するだけでなく，自分の側（家族など）にあると判断した対象にも用いる。つまり，動詞だけでなく人称代名詞の3人称形にも謙譲語の形式が存在する。下の（III）では，3人称 ipun が話し手の息子を指すとすれば，「せがれめ」という意味となる。

（I）	Ia	madaar.	（彼は食べる。）
	普	普	
（II）	Dane	majengan.	（あの方はお食べになる。）
	尊	尊	
（III）	Ipun	nunas.	（せがれめは頂戴させていただく。）
	謙	謙	

(Kersten 1970: 14)

2. 敬語語彙の分類と敬語語彙の認定数

2. 1. 敬語語彙の分類

前章であげたバリ語敬語語彙に関する4つの記述的研究は，いずれも敬語語彙目録を一覧表の形で提示している。先の図1に示す通り，バリ語の敬語語彙は，普通語類と敬語類の2種類の語彙グループに分類されることに注意してほしい。

（1）から（4）の研究は，それぞれの目録にある敬語語彙を敬語的属性ごとに4つあるいは5つのクラスに分けている。以下の表2は4つの研究が設定する敬語語彙クラスを示したものである。ここで原語を付したのは，類似した概念を訳語だけに基づき議論すると，不必要な誤解が生じることもあり得るためである。

表2　4つの研究が設定する敬語語彙クラス

	普通語類	敬語類			
本研究	普通語	丁寧語	丁寧尊敬語	尊敬語	謙譲語
(1) Kersten (1970)	basa kasar	basa alus	basa alus/singgih	basa singgih	basa ipun
(2) Bagus (1979)	basa kasar	basa alus/ alus mider	×	basa alus singgih	basa alus sor
(3) UN (1983)	kruna kasar kruna andap	kruna alus mider	×	kruna alus singgih	kruna alus sor
(4) Kersten (1984)	basa biasa	basa alus	basa alus/singgih	basa singgih	basa sor

表中で用いられる用語はバリ語であるため，若干解説が必要である。いずれの用語も，1語めがbasa（「言葉」）あるいはkruna（「単語」）という語で始まっている。Kersten (1970)，Bagus (1979)，Kersten (1984) はbasaを，UN (1983) はkrunaを用いている。UN (1983) は語彙を示すときはkrunaを，文体を示す場合にはbasaを使っている。それに対して，Kersten (1970)，Bagus (1979)，Kersten (1984) は語彙レベルと文体レベルを区別せず，どちらもbasaで表す。

本研究の「普通語」に相当するクラスの用語には，kasar（「粗い，粗野な」），biasa（「普通の」），andap（「低い」）という語が使われている。UN (1983) では普通語に相当するクラスをkruna kasarとkruna andapの2つの下位クラスに分類している。UNは「kruna andapは粗野でもなく，丁寧でもない，普通というニュアンスを持つ」(UN 1983: 51) と述べていることから，kruna kasarは「粗野な語彙」を，kruna andapは「普通の語彙」を示していると解釈できる。

本研究の「丁寧語」に相当する用語には，いずれの研究にもalus（「丁寧な，洗練された」）という語が使われている。Bagus (1979) とUN (1983) では，丁寧語以外の敬語類のクラスである尊敬語と謙譲語の用語にもalusの術語が使われている。これは，普通語類に対して，敬語類という語彙グループを示す表現としてalusの語を用いたためと思われる。また，Bagus (1979) とUN (1983) ではalus miderという術語が見られるが，miderとは「ニュートラルな」という意味である。したがって，alus miderは他の敬語類とは異なる，ニュートラルな敬語類のクラスを示す術語と言えるだろう。ただし，Bagus (1979) はその用語を用いることによってbasa alusとの違いを示してはいない。

本研究の「尊敬語」に相当する用語には，いずれの研究もsinggih（「高貴な，高い」）という語を用いている。

本研究の「謙譲語」に相当する用語には，Kersten (1970) を除き，いずれもsor（「下」）という語が含まれている。Kersten (1970) ではipunという語を用いていたが，それは3人称代名詞を表す謙譲語からとっている。

ここで問題になるクラスは，丁寧尊敬語（basa alus/singgih）である。表2からわかる通り，このクラスはKerstenのみが設定しているものである。この丁寧尊敬語のクラスに属する語彙は，他の研究では丁寧語（basa alus/alus miderまたはkruna alus mider）に属するものと認められている。Kerstenは，この丁寧尊敬語というクラスは尊敬語的機能を持つ丁

寧語であると定義している。丁寧尊敬語のクラスの有無が敬語セットの形成にどのような違いをもたらすのかという問題については，第3章で述べる。

このように（1）から（4）の4研究はそれぞれの目録の敬語語彙を敬語的属性ごとに分類しているのだが，そのうち（3）のUN（1983）は次のような記述上の不備がある。彼の記載する敬語語彙目録は普通語類と敬語類との連合関係，すなわち敬意詞がいかなる敬語セットを形成するかを全く記述していないのである。敬語セットが記述されていないのは，バリ語の敬語の理解にとって重要な情報を欠いていることになる。

2. 2. 敬語語彙の認定数

本節では，（1）から（4）の各研究が設定する「敬語類」に属する敬語語彙の数を比較，検討する。

4つの先行研究に見られる敬語語彙の認定数を比較するためには，比較の対象となる敬語語彙数を表示する方法が同じでなければならない。（1）から（4）の語彙目録に表示されている語をすべて数え上げると，普通語類，敬語類ともに表3の例が示すように，同一の語を重複して数えてしまうことがある。すなわち，例1では実際には同一の語 malu を2語と数え，例2では同一の語 antuk を2語と数えてしまう。

表3　敬語語彙目録の重複語彙例

	意味	普通語（basa kasar）	丁寧語（basa alus）
例1	以前	malu	rihin
	以前，まず	malu	dumun
例2	～によって（手段，受身）	aji	antuk
	～によって（受身）	baan	antuk

（Kersten（1970）の敬語語彙目録より）

したがって，敬語語彙認定数を比較するためには，重複を網羅的に見つけ出し，総語数を補正しなければ，重ならずに数えることにならない。このような補正によって算出した結果を用い，先行研究の敬語類に属する敬語語彙と普通語類に属する敬語語彙およびその合計を算出した結果を示したものが表4である。

表4　敬語語彙の認定数の比較

	Kersten（1970）	Bagus（1979）	UN（1983）	Kersten（1984）
敬語類	108	708	43	166
普通語類	111	577	19	175
合計	219	1285	62	341

表4から研究間に敬語語彙の認定数の上で差があることは明らかである。まず，Bagus（1979）は認定される敬語語彙数が1285語と飛び抜けて多い。次に多く数えられるのは，Kersten（1984）の341語である。次いで同氏のそれ以前の研究であるKersten（1970）の

219語が続く。最も少ないのはUN（1983）の62語であるが，これは，この研究が網羅的な敬語語彙の提示を目指していなかったからだと考えられる。UN（1983）の主な目的は，それ以前の不一致の多かった敬語記述のための用語と分類方法を統一させることだったのだろう。

上のような算出による比較に基づくと，敬語語彙の認定数の上では，Bagus（1979）が最も優れていると評価できる。しかし，敬語語彙（bentuk hormat）として同氏が認めている語彙の中で，敬語類に対応する普通語（basa kasar）の項目に明らかにメタ言語的な“訳”と思われる記述がなされているものが9例見つかった。それらの例は，他の研究の語彙目録には記載されていない。9例のうち1つを例示する。

尊敬語（basa alus singgih）　：普通語（basa kasar）
beji　：manjus ka tukad wiadin ka pancuran
「川もしくは湧き水に水浴びに行く」

この‘beji’という語彙は，私のバリ滞在中の観察でも敬意度を持つことが認められるが，対応する普通語が存在しない。他の8例も同様である。しかし，Bagus（1979）はこの種の記述の普通語の項がこのような“訳”であることを明示していない。そのため，この他にも同様の人工語的な訳語による普通語項目が存在する可能性は否定できない。そこで，敬語語彙から普通語を取り除いた数を比較してみると，Bagus（1979）は708語，Kersten（1984）は166語，Kersten（1970）は108語，UN（1983）は43語であった。この数え方でも，やはりBagus（1979）が群を抜いて多数の敬語語彙を認定していることがわかる。したがって，Bagus（1979）が依然として敬語語彙の認定数に関して最も優れていると言うことができる。

3. 敬語セットの分類と各タイプの特徴

3. 1. 敬語セットの分類

前章では，各研究がどれほどの敬語語彙を認定しているか考察した。ここでは，認定された敬語語彙がどのように敬語セットを形成するかについて各研究を比較・検討する。

すでに表2で示したように，各研究間の敬語語彙クラスの違いは，「丁寧尊敬語」（basa alus/singgih）の設定の有無によるものであった。本節では，「丁寧尊敬語」の設定の有無が，敬語セットのタイプの形成にどのような違いをもたらしたかを考察する。（1）から（4）の先行研究で設定されている敬語セットを見ると，敬語セットのタイプの分類には，以下の（Ⅰ）の3分類と（Ⅱ）の4分類の2種類あることがわかる。

（Ⅰ） 3分類（Bagus（1979），UN（1983））

A．普通語—丁寧語　(basa kasar—basa alus/alus mider（Bagus 1979））
(kruna kasar&andap—kruna alus mider（UN 1983））

B．普通語—尊敬語　(basa kasar—basa alus singgih（Bagus 1979））
(kruna kasar&andap—kruna alus singgih（UN 1983））

C．普通語—尊敬語—謙譲語
(basa kasar—basa alus singgih—basa alus sor（Bagus 1979））
(kruna kasar&andap—kruna alus singgih—kruna alus sor（UN 1983））

（Ⅱ） 4分類（Kersten（1970），（1984））

A．普通語—丁寧語　(basa kasar—basa alus（Kersten 1970））
(basa biasa—basa alus（Kersten 1984））

A'．普通語—丁寧尊敬語　(basa kasar—basa alus/singgih（Kersten 1970））
(basa biasa—basa alus/singgih（Kersten 1984））

B．普通語—尊敬語　(basa kasar—basa singgih（Kersten 1970））
(basa biasa—basa singgih（Kersten 1984））

C．普通語—尊敬語—謙譲語 (basa kasar—basa singgih—basa ipun（Kersten 1970））
(basa biasa—basa singgih—basa sor（Kersten 1984））

これら2種類の分類法の違いは，(II) のみにA'の敬語セットのタイプが設定されていることである。この2種類の分類の対応関係をわかりやすく示したものが表5である。

表5　敬語セットタイプの分類の対応関係

	(I) 3分類	(II) 4分類
1	A	A A'
2	B	B
3	C	C

この表5が示すように，（Ⅱ）のA'は（Ⅰ）のAタイプに含まれる。すなわち，（Ⅰ）のA.普通語—丁寧語の敬語セットタイプは(Ⅱ)のAとA'.普通語—丁寧尊敬語の敬語セットタイプと一致している。逆に言うと，Kerstenは，他の研究におけるA.普通語—丁寧語という1つのセットタイプをA.普通語—丁寧語とA'.普通語—丁寧尊敬語の2つのセットタイプに分類していることになる。

このように先行研究における敬語セットの分類には2種類見られるが，バリ語敬語体系の記述にとってどちらが妥当であるだろうか。

3. 2. 敬語形と敬語機能

敬語セットの分類は3分類と4分類のどちらが妥当であるかを議論するには，敬語に関

わるいくつかの概念の整備が必要になってくる。そこで，本節では，普通語類および敬語類が曖昧に示してきた2つの概念の区別を，新しい用語を導入することによって明確にしよう。すなわち，「敬語形」と「敬語機能」の区別である。「敬語形」は敬語の形自体を示し，「敬語機能」はそれぞれの敬語の果たす機能を示す。表6は，他の研究よりも多くの敬語類の種類および敬語セットタイプを認めているKerstenの4分類法を用い，この「敬語形」が果たす機能を敬語セットタイプ別に示している。

それぞれの「敬語形」の担う「敬語機能」は，敬語セットのタイプによって異なる。Kerstenによる4分類の敬語セットの成員には，普通語（basa kasar または biasa）および丁寧語（basa alus），尊敬語（basa singgih），丁寧尊敬語（basa alus singgih），謙譲語（basa ipun または sor）の5つの「敬語形」が認められている。そして，これらが果たす機能には，普通語機能，丁寧語機能，尊敬語機能，謙譲語機能の4つの「敬語機能」がある。それぞれの敬語形の基本的な敬語機能は，

「X語」の敬語形は「X語」の敬語機能を果たす

のように捉えることができる（例：丁寧語は丁寧語機能を果たす）。

しかし，それぞれの「敬語形」が果たす「敬語機能」は，表6が示すように，1つとは限らない。例えば，敬語セットタイプAの丁寧語は丁寧語機能以外に尊敬語機能と謙譲語機能をも果たしうるし，敬語セットタイプBにおける普通語は普通語機能以外に謙譲語機能をも果たす。したがって，敬語現象の正確な記述のために，敬語そのものの形「敬語形」と敬語の機能「敬語機能」を区別する必要が生じたわけである。

表6　敬語セットタイプによる各敬語形が果たす敬語機能

タイプ	普通語機能	丁寧語機能	尊敬語機能	謙譲語機能
A. 普－丁	普	丁	丁	丁
A'. 普－丁尊	普	丁尊	丁尊	丁尊
B. 普－尊	普	－	尊	普
C. 普－尊－謙	普	－	尊	謙

（「普」は普通語（basa kasar または biasa），「丁」は丁寧語（basa alus），「丁尊」は丁寧尊敬語（basa alus/singgih），「尊」は尊敬語（basa singgih），「謙」は謙譲語（basa ipun または sor）のそれぞれ敬語形をあらわす略号である。）

それぞれの敬語セットタイプによって，各敬語形がどの機能を分担しているかを表7に照らし合わせながら例示する。以下の解説に用いる例は，私自身がバリ現地調査中，複数のインフォーマントから採集した資料に基づく。なお，日本語訳は参考のための近似訳である。

表7　表6の具体例

敬語形	敬語機能			
	普	丁	尊	謙
A. 普－丁 enggal-gelis	早い enggal	早いです gelis	お早い gelis	はようございます （自分or自分側） gelis
A'. 普－丁尊 teka-rauh	来る teka	来ます rauh	いらっしゃる rauh	参る rauh
B. 普－尊 dueg-wikan	上手な dueg	－	お上手な wikan	上手な[6] （自分or自分側） dueg
C. 普－尊－謙 dingeh-pireng-piragi	聞く dingeh	－	お聞きになる pireng	聞かせていただく piragi

A. 普通語（basa kasar または biasa）—丁寧語（basa alus）のタイプは，普通語形と丁寧語形という2つの敬語形から構成され，普通語機能，丁寧語機能，尊敬語機能，謙譲語機能の4つの機能を備えている。普通語形は普通語機能を果たし，丁寧語形は丁寧語機能，尊敬語機能，謙譲語機能の3つの機能を果たす。例えば普通語形 enggal は普通語機能だけを果たす（「はやい」）が，丁寧語形 gelis は丁寧語機能（「はやいです」），尊敬語機能（「おはやい」），謙譲語機能（「（自分もしくは自分側が）はやいです」）を果たす。

A'. 普通語（basa kasar または biasa）—丁寧尊敬語（basa alus/singgih）のタイプは，普通語形と丁寧尊敬語形の2つの敬語形から構成され，普通語機能，丁寧語機能，尊敬語機能，謙譲語機能の4つの機能を持つ。普通語形は普通語機能を果たし，丁寧尊敬語形は丁寧語機能，尊敬語機能，謙譲語機能を果たす。A' は，普通語機能を除く3つの敬語機能が同一の敬語形によって果たされるという点では，表6に示されるようにAと共通している。例えば，普通語形 teka は普通語機能（「来る」）を果たし，1つの丁寧尊敬語 rauh の敬語形によって，丁寧語機能（「来ます」），尊敬語機能（「いらっしゃる」），謙譲語機能（「参る」）の3つの機能を果たす。

B. 普通語（basa kasar または biasa）—尊敬語（basa singgih）のタイプは，普通語形と尊敬語形の2つの敬語形から構成され，敬語機能には普通語機能，尊敬語機能，謙譲語機能の3つがある。Bは他の3つの敬語セットタイプと異なり，普通語形が普通語機能だけでなく，謙譲語機能をも果たす。尊敬語形は尊敬語機能を果たす。例えば，普通語形 dueg は普通語機能（「上手な」）と謙譲語機能（（自分もしくは自分側が）「上手な」）を果たす。尊敬語形 wikan は尊敬語機能（「お上手な」）を果たす。

C. 普通語（basa kasar または biasa）—尊敬語（basa singgih）—謙譲語（basa ipun または sor）のタイプは，普通語形，尊敬語形，謙譲語形の3つの敬語形からなる。敬語機能には普通語機能，尊敬語機能，謙譲語機能の3つがある。普通語形は普通語機能を，尊敬語形は尊敬語機能を，謙譲語形は謙譲語機能を果たす。例えば，dingeh は普通語機能（「聞く」）を果たす。尊敬語形 pireng は尊敬語機能（「お聞きになる」）を果たす。謙譲語形 piragi は謙譲語機能（「聞かせていただく」）を果たす。

3. 2. 敬語セットの分類法：3分類法か4分類法か？

再び敬語セットの分類の問題に戻ろう。先にあげた表6と7から明らかな通り，タイプAの丁寧語形（basa alus）とタイプA'の丁寧尊敬語形（basa alus/singgih）が全く同じ機能を分担している。そこで，これら2つの敬語形の間には一体いかなる差異があるのだろうかという疑問が生じる。ところが，タイプA'を設定するKerstenは，Aとは別にA'を設定した根拠を明示していない。「尊敬語（basa singgih）の数は限られているので，ある表現のための尊敬語がない場合には，しばしば丁寧語（basa alus）から取られる。」（Kersten 1984: 20）と述べられているように，私の推測では，Kerstenは尊敬語として丁寧語が代用される場合を実際に観察し，それを根拠にA'のタイプを設定したのだろう。

しかし，ここでもう1つの疑問が生じる。もしある敬語形がタイプBにおける尊敬語として使われるならば，その謙譲語的機能を担うのは普通語形であることが期待される。ところが，タイプA'で謙譲語機能を果たしているのは代用された丁寧尊敬語形であり普通語形ではない。この疑問は依然として残されたままである。

したがって，バリ語の敬語セットの分類はAタイプとA'タイプを1つのタイプと捉える3分類法が妥当である。ただし，A'タイプの意義，つまり4分類法の意義が全くない訳ではない。これについては，私自身の観察結果を用いて後で再び議論する。

4. 敬語セットタイプによるセット数の違い

4. 1. 敬語セットタイプ間のセット数の比較

前章で述べたように，本節では問題のある4分類法は避け，3分類法に基づいて議論を進める。ここでは，3分類法が基づくそれぞれのタイプA, B, Cの間で，それに含まれる敬語セットの数に著しい差が見られることに注目し，その差はいったい何を意味するのかという問題を検討する。検討に用いる資料にはKersten（1984）の敬語語彙目録を採用する。Kersten（1984）のみを用いるのは，次の2つの理由による。1つは，2. 2. で述べたように，Bagus（1979）では敬語類に対応する普通語（basa kasar）の項目にメタ言語的な“訳”と思われる記述がなされる例が見られることである。いま1つは，UN（1983）では敬語語彙が敬語セットとして記されていない，すなわち普通語と敬語類が対応してあげられていないことである。

表8はA, B, Cタイプのセット数を対照させたものである。

表8　タイプ別のセット数の比較

敬語セット	セット数
A. 普通語－丁寧語 （basa biasa－basa alus＋basa alus/singgih）	102[7]
B. 普通語－尊敬語 （basa biasa－basa singgih）	48
C. 普通語－尊敬語－謙譲語 （basa biasa－basa singgih－basa sor）	18

A, B, C タイプのセット数を比較すると，C タイプ（18 セット）が他の 2 つのタイプにくらべて少ないことがわかる。なぜこの違いがもたらされるのだろうか。これは，セット内の敬語形の種類の数の差に理由を求めることができるだろう。A と B のタイプは敬語形がそれぞれ 2 種類あるのに対して，C のタイプは 3 種類の敬語形がある。3 種類は 2 種類よりも数の上で複雑なので，C タイプのセット数が限られているのは当然であると考えることができる。これは，数の上で複雑ならば語彙部門に関与する記憶に負担がかかるという措定に基づく。

しかし，ここで 1 つの疑問が生じる。もし敬語形の数の上での複雑さだけがセット数の差の原因であるとしたら，A と B のタイプはセット数に大きな違いが見られないということになる。ところが，表 8 で示されるように，A と B のタイプの間でセット数に 2 倍以上の違いがある（A: 102 セット，B: 48 セット）。では，一体 A と B の間にはどのような構造的な違いがあるのだろうか。両者の構造的な違いに関与する特徴を特定することが，A と B のセット数の差を説明することにつながるはずである。

4. 2. 敬語機能相互の対立関係

A と B の間の構造的な違いに関与する特徴はいったい何だろうか。その特徴を明らかにする上で敬語機能相互の対立関係に関する理解が重要となる。

敬語機能相互の対立関係については，すでに崎山・柴田（1992）の研究がある。そこでは，敬語機能（「呼称」）が，多値的な特徴である敬意度の違いのみによって，表 9 に示すように対立していると捉えられている。彼らは丁寧語と尊敬語の間には敬意度の違いが捉えられるとしているが，その敬意度の差は疑問である。なぜならば敬意度の値の違いの根拠には言語形式上の裏付けはないからである。しかし敬意度をどのように設定すべきか(二値的か，多値的か，多値的ならばいくつの値が必要か)という問題については論じない。ここでは彼らの用いる敬意度の値を記しておく。

表 9　崎山・柴田（1992）の設定する敬意度

呼称	普通語	丁寧語	尊敬語	謙譲語
敬意度	0	+1	+2	−1

私の考えでは，敬語機能間の対立関係を理解するためには，敬意度の値の違いだけではなく，「敬意の向かう方向」という特徴が重要である。したがって，私は敬語機能間の対立

表10　敬語機能の分析

敬語の対象	L	H		
役割/敬語機能	普通語機能	丁寧語機能	尊敬語機能	謙譲語機能
敬意度	0	+1	+2	−1
敬意の方向	−	話し手→聞き手	話し手→指示物 （聞き手と一致し得る）	指示物→話し手

関係を表10に示すように理解している。

また，さらに，敬語関係を持つ対象が「目上」であるか「目下もしくは同等」であるかという区別を記述する必要もあり，その区別は表10では「目上」と「目下もしくは同等」をそれぞれHとLを用いて示してある。すなわち，聞き手もしくは指示物がH（目上）の場合は敬語類のうちいずれかの機能が期待される。丁寧語機能を果たす場合はプラスの敬意が聞き手に向かい，尊敬語機能の場合はプラスの敬意が指示物（聞き手と一致し得る）に向かい，謙譲語機能の場合は指示物よりも話し手を低めるマイナスの敬意が指示物から話し手に向かう。一方，聞き手もしくは指示物がL（目下もしくは同等）の場合は普通語機能が期待される。普通語機能は敬意度がゼロであり，したがって敬意の向かう方向はない。

4. 3. 敬語セットタイプAとBの構造的な違い

前節では，「敬意度」「敬語の対象」「敬意の方向」の特徴を用い，敬語機能相互の対立関係を記述した。本節では，それに基づき敬語セットタイプAとBの間の構造的な違いを明らかにする。

Aの場合，前節で述べた通り，普通語形が普通語機能を果たし，丁寧語形が丁寧語機能，尊敬語機能，謙譲語機能の3つの機能を果たす。これは，普通語形と丁寧語形を区別するだけで，それら4つの役割を正しく機能させ得ることを意味する。すなわち，Aタイプのセットを正しく用いるためには，敬語の対象がL（目下もしくは同等）あるいはH（目上）かを区別すればよい。つまり，敬語の対象がLであれば普通語形を用い，Hであれば丁寧語形を用いればよい。

一方Bの場合は，普通語形は普通語機能と謙譲語機能を果たし，尊敬語形は尊敬語機能を果たす。したがって，Aと同じように，敬語の対象がLであるかHであるかを判断することによって，普通語機能と敬語類機能（尊敬語機能，謙譲語機能）の2つを区別する。しかしながら，その区別だけでは謙譲語機能を普通語形が担うことにはならない。そこで，「敬意の向かう方向」という特徴が必要になる。すなわち，敬意の方向が話者から指示物（聞き手と一致する場合もある）へ向かうか，あるいは指示物よりも話し手自身を低める“マイナスの”敬意が指示物から話し手に向かっているかを区別して初めて，謙譲語機能を普通語形が担っていると言える。

以上のように，Aは敬語の対象を区別するのみであるのに対して，Bはその他に敬語の方向の区別という2つの区別が必要である。この違いを示したものが表11である。

表11　AとBの構造的違いに関与する特徴

	HとLの区別	敬意の方向の区別
Aタイプ	必要	不要
Bタイプ	必要	必要

すなわち，Bは，Aとは違う2種類の操作が必要であるという点で，Aよりも複雑な構

造を持っていると言える。この複雑さの違いが話者への記憶の負担にも差を生み，それがセット数の差異にも反映していると解釈することができる。

以上，本節では敬語セットの3つのタイプA, B, Cの間に，それに含まれる敬語セットの数に著しい差が見られることを指摘し，その差に関する説明を試みた。次章ではA'のタイプが関与する敬語の変化に触れる。

5. 敬語語彙の構造的変化

第3章では先行研究で設定されているすべての敬語セットタイプを扱った。したがって，A，A'，B，Cの4タイプが考察の対象であった。しかしながら，敬語形による敬語機能の役割分担の型から見ると，AとA'のタイプの間には違いが全くない。また，すでに述べたように，この2つのタイプを区別する4分類法を設定するKerstenは，その区別に対する十分な根拠を示してはいない。そのため，前章では3分類法がバリ語の敬語セットタイプの分類法として妥当であると判断し，議論を進めた。

では，4分類法はまったく何の利点もない考え方なのだろうか。本章では，私が調査中に行った観察に基づいてこの4分類法を再検討したい。結論を先に略述すると，この分類方法に基づいて敬語セットを分析することによって，言語変化の方向の実態の一端を知ることが出来ると考えられる。これは，この4分類法を支持する1つの根拠となるであろう。

すでに繰り返し述べているように，4分類法では，3分類法とは異なり，普通語（basa kasar または biasa）—丁寧尊敬語（basa alus/singgih）のタイプが普通語（basa kasar または biasa）—丁寧語（basa alus）のタイプとは区別して設定されている。しかしながら，丁寧語か丁寧尊敬語かの語彙の認定は，Kerstenの主観的なもの[8]であると考えられる。Kerstenの記述を見る限り，丁寧語と丁寧尊敬語が異なるという形式的な根拠はなく，意味的な違いを主観的に判断したものと考えざるを得ないからである。

では，この4分類法を支持する形式上の根拠は全くないのだろうか。これを考える上で示唆的な観察結果が，私のおこなった敬語語彙の構造面に関する予備調査からもたらされた。以下では，この観察について述べる。

Kersten（1984）が丁寧尊敬語（basa alus/singgih）として分類している25語彙[9]のうち8語彙が，1人のインフォーマント（バリ語標準方言話者の30歳代男性）によって，丁寧尊敬語ではなく尊敬語（basa singgih）と判断された[10]。一体この結果は何を意味しているのだろうか。私の考えでは，これは敬語語彙体系の変化のある方向を示すものである。

私は，Kerstenの設定している丁寧尊敬語（basa alus/singgih）というカテゴリーを，丁寧語（basa alus）の一部が尊敬語（basa singgih）に変化しつつある中間段階の語彙群であると考えてみたい。このように考えると，私が観察した8語彙，すなわちKerstenによると丁寧尊敬語であったものがインフォーマントによって尊敬語と判断された8語彙は，“中間段階を終えて最終段階に入った”語彙であると解釈することができる。したがって，この解釈に基づくと，以下の図2で示すように，言語変化の段階が3段階あると想定される。

すなわち，丁寧語は中間段階で丁寧尊敬語となり，さらに最終段階で尊敬語になる。ここでは，8語彙が最終段階に到達し，残りの17語彙が中間段階まで変化が達成されていると解釈できる。

したがって，私のインフォーマントの判断は，図2に示すように，Kerstenが認めた25語彙の丁寧尊敬語，すなわち中間段階にある語彙のうち，8語彙が最終段階の尊敬語に変化が行き着いていることを意味している。残りの17語彙は，依然として中間段階にあると解釈できる。

図2　丁寧語の尊敬語への変化の段階図

段階	第1段階	中間段階	最終段階
	丁寧語	丁寧尊敬語	尊敬語
インフォーマント	―――――	―――――>17語	
	―――――	―――――	―――――>8語
Kersten (1984)	―――――	―――――>25語	

ここでは，1984年の語彙目録に基づいているが，Kerstenは1970年の研究においてすでに丁寧語と区別して丁寧尊敬語という敬語類を設定していた。彼はその時点で少なくともKersten（1970）の目録にあげられていた16語彙が他の丁寧語とは異なる用法を示すこと，あるいは，母語話者たちの言語意識の上で異なる扱いを受けることを観察していたものと推測される。残念ながら彼はその観察について一切触れてはいない。この時点から30年以上経た現在，当時始まりつつあったこのような変化がさらに進行したと推測することは，不自然ではなかろう。もちろん，たった1人のインフォーマントの判断から，一般化するのは困難である。しかしながら，私の観察結果は，Kerstenの設定した丁寧尊敬語という敬語類を考慮することで，敬語語彙の構造的変化に関する1つの仮説を立てることを可能にするものである。Kerstenの4分類法は，この意味で，再考に値する視点，すなわち敬語語彙の構造的変化に関する視点を含意する興味深いものだということができる。

6. おわりに

本稿では，バリ語敬語語彙の収集・提示およびその分類をおこなっている4つの記述的研究を，敬語語彙の認定，敬語語彙の分類という主に2つの側面から比較し，検討した。そして，その過程で，敬語に関わる諸特徴を特定し，バリ語敬語体系の内部構造をより明確に示すことができた。また，最後に，先行研究の1つであるKerstenによる敬語語彙分類を再検討することによって，敬語語彙の構造的変化に関する仮説を提示した。すなわち，Kerstenのみが設定する丁寧尊敬語は，丁寧語から尊敬語へ変化する中間段階を表している語彙クラスではないかという仮説である。しかし，先に述べたように，この仮説が基づいているデータは1人のインフォーマントから得られたもので，個人語や地域方言などの可能性は否めない。そのため，話者の出身地や居住地，世代，性別，カーストなどの社会言語学的な要素を考慮しながら複数のインフォーマントの選択をおこない，彼らを対象とした組織的な調査を実施する必要がある。このような調査によって，本稿で提案した言語変

化に関する仮説を検証できるだろう。これは今後の課題である。

また，本稿では論じる範囲ではなかったが，バリ語敬語研究にとって重要な側面について最後に触れておく。バリ語の敬語法には，とくにインドネシア語の普及による言語干渉により「混乱」が生じていることは事実である。ミゲル・コバルビアスは，1930年代にすでにバリの若者の間でマレー語（インドネシア語）[11]が急速に広まっていることを観察している（コバルビアス　1991: 88）。また現代の社会変化により正当な敬語使用が守られなくなり，尊敬語（alus singgih）や謙譲語（sor［*sic*］）を使い分けるよりもインドネシア語から借用する方法がとられる（Bagus 1975: 39）という指摘もなされている。しかし，過去のバリ語の敬語使用を研究する資料はほとんどなく（ロンタルを主とする宗教的文書は役立たない），古老あるいは方言などを調査し，それに基づき追求していくしかない。このような制限はあるが，バリ語敬語使用の「伝統的な姿」および主にインドネシア語の影響によるバリ語敬語使用の変化を調査することはバリ語敬語研究にとって不可欠な側面であり，今後残された重要な課題であることを付け加えておく。

注

1　また私の知り得た限りでは，これら4つの研究の他にTinggen（1986）があり，それはバリ語敬語語彙目録をインドネシア語訳を付してあげている。しかし以下の理由で他の4研究に比べて極めて信頼性が低いためここでは同列に扱うことができない：敬語語彙目録の中に明らかな非敬語語彙（汎用詞）が誤って多数含まれていること，インドネシア語が誤ってバリ語として記されていること，敬語類にメタ言語的な“普通語の敬語訳”と思われる記述がなされている敬語セットが多いことが理由としてあげられる。

2　敬意詞と汎用詞は崎山・柴田（1992）で用いられる用語である。

3　崎山・柴田（1992）で用いられる用語である。

4　尊敬語の3人称には，dane「その方」の他に，カーストがより上位の人に対して用いるida「そのお方」がある。

5　尊敬語の「食べる」には，majengan「お食べになる」の他に，カーストがより上位の人に対して用いるmarayunan「お召し上がりになる」がある。

6　この語の謙譲語機能は，日本語による翻訳的置き換えが困難である。

7　A. 普通語—丁寧語の102セットのうち33セットは，KerstenによるとA'. 普通語—丁寧尊敬語である。

8　Kerstenはバリ語のネイティブスピーカーではないので，彼の主観はネイティブスピーカーの直観による判断ではない。

9　私の調査では，Kersten（1984）が丁寧尊敬語として分類している33語彙のうち25語彙だけが対象となっている。それ以外の8語彙は調査の方法上扱うことができなかった。したがって，この残りの8語彙の中にも，ここで述べているような変化を被っているものがあるかもしれない。

10　今回，この調査は1人のバリ語のネイティブスピーカーにしかあたることが出来なかったので，調査結果は個人語である可能性もある。よって，その結果の扱いは慎重であるべきだが，少なくともネイティブスピーカーの判断としてKerstenの主観よりは評価出来るはずである。

11　（　）内は原による。

参考文献

Bagus, I Gusti Ngurah. 1975. "Bentuk Hormat dalam Masalah Pembakuan Bahasa Bali."（「バリ語標準化の問題における敬語」）I Gusti Ngurah Bagus（ed.） *Masalah Pembakuan Bahasa Bali*（『バリ語標準化の問題』）. Balai Penelitian Bahasa, Departemen Pendidikan dan Kebudayaan, Singaraja.

Bagus, I Gusti Ngurah. 1979. *Perubahan Pemakaian Bentuk Hormat dalam Masyarakat Bali - sebuah Pendekatan Etnografi Berbahasa*（『バリ社会における敬語使用の変化　－ことばの民族誌的アプローチ』）. Ph.D Dissertation in Anthropology, Indonesia University.

Kersten, J. S.V.D. 1970. *Tata Bahasa Bali*（『バリ語文法』）. Nusa Indah, Ende, Flores.

Kersten, J. S.V.D. 1984. *Bahasa Bali*（『バリ語』）. Nusa Indah, Ende, Flores.

Tinggen, I Wayan. 1986. *Sor Singgih Basa Bali*（『バリ語敬語体系』）. Sekolah Pendidikan Guru Negeri Singaraja.

Udara Naryana, Ida Bagus. 1983. *Anggah-Ungguhing Basa Bali dan Peranannya sebagai Alat Komunikasi Masyarakat Bali*（『バリ人にとってのバリ語敬語体系とコミュニケーションの手段としてのその役割』）. Udayana University.

崎山理，柴田紀男　1992.「バリ語」亀井孝，河野太郎，千野栄一編『言語学大辞典第2巻世界言語編（上）』三省堂 . pp.292-298.

ミゲル・コバルビアス　1991.『バリ島』関本紀美子訳，平凡社 .（Covarrubias, M. 1936. *Island of Bali.* Alfred A. Knopf, Inc., New York.）

（2005．12．26受理）